

研修会報告

“今注目のインド”

～Future of India-China Relations: What It Means to Japan and the United States～

2022年7月19日(火)

講演者: Jagannath Panda 博士

Head, Stockholm Centre for South Asian and Indo-Pacific Affairs, ISDP, Stockholm

Senior Fellow, The Hague Centre for Strategic Studies, The Netherlands

International Research Fellow, The Canon Institute for Global Studies, Japan

渡辺紫乃教授

上智大学総合グローバル学部

研修担当理事: 小暮 美怜

角道 高明



7月19日(火)、ワシントン日本商工会は、北欧を拠点にして世界で活躍されているインド・東アジア関係の著名政治学者のパンダ博士と上智大学総合グローバル学部の渡辺教授をお招きして、インドと中国の関係、ロシア・ウクライナ戦争勃発後の地政学リスクの大きな変動の下でのインドを取り巻く環境、インドと日米両国との関係の今後の行方等について、オンラインと対面のハイブリッド形式の研修会を開催しました。

世界の地政学リスクが高まる中、「自由で開かれたインド・太平洋」の実現に向けて、日米豪印4か国によるQUADが始動しましたが、インド・太平洋地域における民主主義国家の連携の鍵を握るインドの今後の動きに注目が集まっています。パンダ博士から、1947年のインドの英国からの独立、1949年の中国共産党による中華人民共和国の建国と、ほぼ同じ時期に独立国家として歩み出したインド・中国の両国のこれまでの70年超の、相互に歩み寄ったり国境を巡って敵対したりする「ジグザグな関係」について丁寧に説明して頂きました。同博士によれば、インドは「ロシア・ウクライナ戦争はNATOが仕掛けた戦争で所詮は欧州の問題。インドが直接関わるものではない」と考えているとのご説明でした。我々が普段見聞きしている米欧メディアを通じたウクライナ寄りの情報とは異なる視点の見解は大変興味深かったです。また同博士によれば、インドは軍事安全保障上では民主主義陣営にも権威主義陣営にも組みせず独自路線を維持するも、経済安全保障上は日米韓に歩み寄りたいと考えており、中でも安倍元首相がモディ首相との間で築いた日本との関係を重視しているとのご説明でした。インド・太平洋地域において日本が果たし得る役割について貴重な視座を頂きました。今後のインドを中心とするインド・太平洋地域の地政学リスクについて理解を踏まえる上で、大変有益なご講演でした。

その後、参加者からもインドに関連する多くの質問を頂き、パンダ博士から解り易く説明して頂きました。研修会終了後も、参加者からの謝意やメッセージが多く寄せられ、大好評に終わりました。我々日系企業にとって、大変参考になるディスカッションができたと思います。

以上

